

「少子化対策は最大の高齢者福祉」

去る7月11日～12日、甲良町議会の総務民生常任委員会と産業建設教育常任委員会との合同で子育て応援の先進例として 出生率2.88を記録し「奇跡のまち」と評された岡山県奈義町、兵庫県朝来市では「住民自治」の視察研修を実施。視察研修で得た情報と西澤議員の感想を2回に分けて報告します。7月27日には町長、教育長はじめ行政職員を対象に視察研修の報告会を開催しました。奈義町の子育て応援施策の一例は裏面参照)



④高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」

- ◆住むところがあって安心
- ◆働くことができ安心
- ◆子育ての負担が軽くなって安心
- ◆子育ての悩みや喜びが共有できて安心
- ◆町みんなが子育てを応援してくれて安心

【上記の「安心」を実現させていると感心した】

以下は、西澤の感想】

1, 近隣市との合併をめぐる住民投票で投票率75%、内70%が単独・自立」を選択したこと、住民の協働意識が高まり」と評されている。ここが出発点になったのではないかと。平成の大合併の波の中 大きな市に頼

らう」とは選択せず、住民のみなさんが自主的に考えて 単独・自立のまち」を選択されたことが大きかったと思う。行政のあり方、町政の運営を我がこと」と思ってもらえる 住民投票までの町政運営、歴代の町長さんと議会議員の役割が問われたのだろうと思う。つまり住民の多数は

町政と議会を肯定的に受け止めたのだろう。このことが一番印象に残った。

2, 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による人口推計で「削減自治体」の指摘の受け止めの真剣さとその克服・脱出の道筋がござなりではなく現状に即して 奈義町の存続のため」との課題が明確になり、克服のための方針化がされており、その方針がずれずに町長の代が変わっても続いている「担当課長」と評価されている。住民の「単独町で進む」という言葉がアイデンティティが強くベールにあると思っ

3, 町政運営の中心に 奈義町の存続のため 「人口減少」は最大の課題」を置き、少子化対策は子育て世代だけの問題ではない。だからこそ、課題を住民と一緒に考える」少子化対策は最大の高齢者福祉」だと明快に掲げられる町長の指導性とその方針の下で誠実に仕事を遂行する職員の努力があればこそだと思っ。次号に続く



甲良民報

2023年7月30日 890号

発行責任：日本共産党甲良町議員  
連絡：甲良町在士 373 (西澤)  
Tel: 38-4949 Fax: 38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949

◎日本共産党の見解を紹介します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもご覧ください【「西澤伸明」で検索】

# 経済的支援の主な例

## 町民の気持ちに寄り添った経済支援



保育料が国基準の  
約半額  
さらに第2子はその半額  
第3子以降は無料

小中学校の給食費の  
半額を  
町で負担

小中学校の教育  
教材費を  
無料化



高校生までの  
医療費無料



大学生に町独自の  
奨学育英金  
卒業後に町への定住で  
全額返済免除

特定不妊治療を  
受けた方に県の助成を  
引いた額の1/2以内で  
年額20万円を助成



在宅育児をする  
保護者に  
毎月15,000円の  
支援金

高校生への  
就学支援として  
年額240,000円の  
支援金



おたふくかぜや  
インフルエンザなどの  
予防接種も助成



中学3年生までの  
子どもを育てる  
ひとり親に  
年額5万4千円を支給  
第2子以降は  
1人2万7千円加算



収入の半額

▲上図および表面のカットは奈義町の研修資料より（文中のメモ書きは西澤）